

高 雄 だ よ り 臨時号

平成 27 年 10 月 13 日
京都市立高雄小学校
校 長 出 口 信 行

～平成 27 年度全国学力学習状況調査の結果～

今年度 4 月 21 日に、本校児童 6 年生 17 名を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりました。今回の調査は、国語・算数・理科の 3 教科のテストと家庭での過ごし方や家庭学習の調査も実施されており、相互の関係など、本校の状況をお伝えします。

<総合結果：国語・算数・理科>

テストは主として知識の A と主として活用の B 問題に分かれております。結果は、国語は A・B、算数 A、理科の問題いずれも全国平均・府平均を上回りました。また、算数 B については府の平均をわずかに下回ったものの、全国平均は上回りました。問題の無回答も少なく、全体に問題に向かう姿勢の向上が見られました。

<国語科>

全体的によく出来ていました。とくに具体事例を挙げて説明する・話の内容に対する聞き方の工夫・表現の工夫を捉える・登場人物の相互関係を捉える・文章の要旨を捉えるなど、文章の読み・書きなど全国平均を大きく上回る結果となりました。また、今まで弱かった漢字の読み書きの力はついていました。漢字については家庭での復習が活きていると考えられます。一方で、文章の主語・述語の関係など基礎的な理解の落ち込みも見られました。

今後は、言語について国語に限らず様々な教科で関心をさらに深め、主体的に読む・調べる・表現するといった学習姿勢を身につけていってほしいと願っています。

<算数科>

算数の知識問題 A では、全般によく出来ていました。小数の加減法・分数の加減法を扱った問題や必要とする時刻を求める問題など、全体に全国平均を 5 ポイントほど上回っていました。一方で、正答率が低かったのは角の大きさを求める問題、円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求める問題でした。計算して答えを求めるだけでなく、数のバランス、図から導きだした数値をあつかう問題にも慣れ、問題を解くおもしろさをもつと経験していくことが大切です。

算数 B では、見当と概数に対する概念と、概数に表す問題に苦労していました。概数は、社会でも日常的によく使われます。もう一度復習して押さえておきたいところです。

<理 科>

理科は、高学年になると、日頃の実験では自然事象について予想と仮説を立て、実験方法を考え、実験時の環境や実験に関わる気温、湿度、時刻、天候などの条件を意識して実験結果を記録して考察します。今回のテストにも、基本的な問題ではあるものの条件・資料をもとに実験の結果を考察したり説明したり、表やグラフを読み取ったりする問題が出ており、正答率は低く、そうした資料活用能力は今後つけていかなければならない力です。

理科の問題でも全国平均を上回りましたが、気になりましたのはメスシリンダーの名称記入ができなかった児童が多く、これは全国平均を下回っていました。このことに限らず、基礎・基本はしっかりと習得しておく必要があります。

＜児童質問紙調査から＞

児童質問紙調査結果で、全国平均より高かったのは以下の項目です。

- ・ 朝食を必ず食べて登校する
- ・ 友だちの話を最後まで聞く
- ・ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことの経験が多い
- ・ 保護者の学校行事参加率が高い
- ・ 予習・復習をしている
- ・ 人の気持ちが分かる人間になりたい気持ち
- ・ いじめは絶対にいけない

今回の結果から、家庭での学習の充実がうかがえ子ども自身の努力とご家庭の協力がうかがえました。また、5年生のときの学習状況について子どもたちの回答に「意見発表や意見交換の機会が多かった」「学習のめあてやねらいが示されていた」「ノートにめあて・ねらい・まとめを書いていた」などが質問紙調査結果から多く見られたことから、これまでの積み重ねが定着につながってきていることがわかります。一方で、自己肯定感は全国平均以下にとどまり、学習を生活に応用して考えるといった意識も下回っていました。

＜全体を通した本校の成果と課題＞

本校では、一人一人の学力の向上に向けて、過去の全国学力・学習状況調査およびジョイントプログラムの結果をもとに、昨年度から引き続き今年度の全校の学習課題を全教員で見直してきました。そして、放課後の確保、指導体制、「子どもが主体的に学習する授業改善と言語活動の充実」をめざし、公開授業、研究協議による授業のチェック、基礎基本の習得のための個別指導などを進めてきました。

また、テストの見直しやプリントなどを使った繰り返し学習、読書のすすめと図書館の活用など、図書ボランティアの方にも手伝っていただき、一人でも多くの子どもが文章になじみ、学習好きになるように取り組んできました。そうした取組の成果は今回の全国学力・学習状況調査の結果にあらわれたと思います。

今後も、一人一人の学力の向上を目指して取り組んでいきます。

本校の課題は児童にもっと自信をつけさせることです。そのためには、小さな達成感の積み重ねが大切と考えます。授業での問題解決、長期休業期間の自由研究、競技会への出場など、そうした機会あるごとに子どもたちに達成感と自信を持たせるような経験をさせることは重要だと思います。また、日頃より子どもたちを肯定的に承認してやることが重要です。それには日常的にまわりの言葉がけが重要なキーワードになってきます。子どもに勇気を持たせる言葉、子どもが嬉しくなる言葉、子どもがやる気が湧いてくる言葉をシャワーのように子どもに浴びせていくことが肝心かと思います。

＜保護者の皆様＞

学力・学習状況全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの内の無限の可能性を引き出し、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学校・家庭・地域の協力のもと積み重ねていくことにより定着し高まってくるものです。今回の結果にも、ご家庭の積極的な関わりや協力が成果として表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。